

# 国際シンポジウム「バイオサイエンスの最前線」 ～Leading edge in Bioscience～

場所 パレスホテル ローズルーム 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-1-1  
TEL:03-3211-5211/FAX:03-3211-6987  
日時 2007年3月17日(土) 9:00～17:00

## セッション(1) 神経系の発生・分化・再生(I)

仲嶋 一範 (慶大・医・教授) 大脳皮質構築のダイナミクス  
有賀 純 (理研 BSI・TL) Zic による動物発生制御の分子機構  
糸 昭苑 (熊大・発達研・教授) アフリカツメガエルと ES 細胞をモデル系に用いる発生・分化研究  
三浦 正幸 (東大・薬・教授) 細胞死からみた神経系細胞の運命決定機構

## セッション(2) 神経系の発生・分化・再生(II)

池中 一裕 (生理研・教授) オリゴデンドロサイトの発生・分化と髄鞘形成  
田村 隆明 (千葉大・理・教授) MBP の転写制御研究から TBP、そして TRF2 研究へ  
前田 信明 (都・神経研・部門長) コンドロイチン硫酸プロテオグリカンによる神経回路形成の制御  
岡野 栄之 (慶大・医・教授) 中枢神経系の発生と再生

## セッション(3) 神経機能

柚崎 通介 (慶大・医・教授) 小脳失調マウスが教えてくれたこと  
古市 貞一 (理研 BSI・TL) 小脳発達トランスクリプトームデータベース(CDT-DB)研究：  
それから学んだこと  
福田 光則 (東北大・生命科学研究・教授) 神経伝達物質放出とメラニン色素輸送  
中川 敏幸 (岐阜大・医・教授) 難治性神経変性疾患の治療を目指した小胞体ストレスシグナルの解明

## セッション(4) 新しい研究技術戦略の開発

小島 俊男 (理研 GSC・TL) 健康と疾患に関するゲノム科学の最近の進展  
永井 健治 (北大・電子科学研・教授) ゲノム DNA 配列の超迅速可視化-テーラーメイド医療を目指して  
宮脇 敦史 (理研 BSI・GD) 光イメージング技術の展望特別講演

## 特別講演

J.P. Changeux (パスツール研)  
The Acetylcholine Receptor Over 30 Years: An Anchartered Story

## 特別講演

御子柴 克彦 (東大・医科研・教授/理研 BSI・GD)  
カルシウムと細胞情報伝達 -IP<sub>3</sub>レセプターの構造・機能とその細胞機能-

国際シンポジウムは公開(無料)です\*発表は英語で行います

主催: 東京大学 医科学研究所 脳神経発生・分化分野

共催: 独立行政法人 科学技術振興機構 発展研究 カルシウム振動プロジェクト

: 独立行政法人 理化学研究所 脳科学総合研究センター

連絡先: 東京大学 医科学研究所 脳神経発生・分化分野

TEL 03-5449-5316/FAX 03-5449-5420

井上貴文 tinoue@ims.u-tokyo.ac.jp